



新年のご挨拶

会長 宮川耕一

令和7年の年頭にあたりまして、謹んで御挨拶申し上げます。皆様におかれましては、日頃より本会の活動に対し、温かい御支援と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。昨年は、元日に発生した能登半島地震や、7月に発生した東北地方の日本海側を中心とした大雨災害など、大規模な自然災害が各地で数多く発生しました。

本会といたしましても、宮城県、市町村社会福祉協議会、関係団体の皆様とともに、DWA Tや応援職員の派遣など、被災地の復旧・復興の支援に努めてまいったところです。この間の皆様の御協力に心より感謝申し上げます。

今年は平穏な年であることを祈りながら、災害時に即応できる体制の強化や地域の支え合いの仕組みづくりに、皆様とともに引き続きしっかりと取り組んでまいります。

また、孤独・孤立、貧困、障害、疾病、高齢などにより様々な困難を抱えた方も住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、宮城県や本会、福祉関係団体等で組織した「宮城県地域共生社会推進会議」を中心として、経済分野、教育分野など様々な関係者とも連携し、「地域共生社会」の実現に向けた事業にも取り組んでまいります。

本会では、こうした地域福祉に関する各種事業を実施しているほか、高齢者や障害児（者）の入所施設等も運営しております。今年も、本会の経営理念に掲げる「豊かな福祉社会の実現」に向けて地域福祉の推進と施設の運営の両面で尽力してまいりますので、引き続き御支援、御協力を賜りますようお願いいたします。

この一年が、皆様にとって実り多い年となりますことを御祈念申し上げます。新年の御挨拶とさせていただきます。

今後の展望として、障害者のみならず、ひきこもりや刑務所出所者の社会復帰、障害児を育てる母親等、社会で働きづらさを抱える方々を対象とした雇用の創出に向けた検討会を行っているとのことでした。また、「多様性と生産性」をテーマとした企業同士の交流をはじめ、就労体験の場作りの提案など、企業が雇用に際して必要となる配慮や手続きを相談する受け皿となるような活動を目指していると、お二人は話されていました。利益や効率を最優先に考えれば、配慮やサポートが必要な方々に対する細やかな対応は難しくなり、当事者の働きづらさにもつながるでしょう。しかし、お二人は「そのような方々も働きやすい職場は、誰もが働きやすい職場であり、生産性の向上にもつながる。経営者はそのような会社を目指す必要がある」と話されていました。

地域に根付いた中小企業だからこそ可能な細やかな配慮や柔軟性を活かし、誰もが支え合いながら仕事に従事し、幸せを感じるこ



▲ひきこもりの社会復帰支援について学ぶ研修会

のできる企業を目指す。さらには、そのような企業が地域に増えることで、「誰もが生きることの幸せを感じる社会」を目指す同友会の取組は、社会問題である孤独・孤立の解消にもつながる、重要なものであると考えます。そこで、次に「経済と福祉の融合」の実践事例である株式会社ライブスポーツの取組を紹介いたします。

地域共生社会の実現に向けた企業と福祉の連携

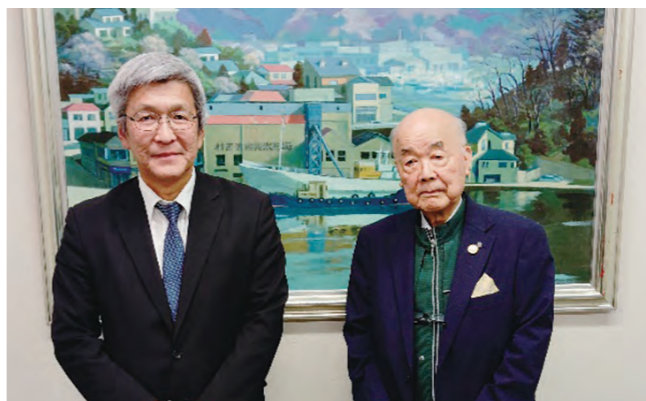
誰もが生きることの幸せを感じる社会を目指して

宮城県中小企業家同友会 共生福祉部会の取組

宮城県中小企業家同友会（以下、同友会という）は、中小企業経営者が自主的に参加し、経営者として、人間として成長するための学びの場です。同友会の特色ある取組の1つに、横断的連携から「共学（ともに学び合い）・共育（ともに育ちあい）・共生（ともに生きる）」の実現を目指す「共生福祉部会」があります。今回は、共生福祉部会の原田前会長と、齋藤会長へインタビューをさせていただきました。

誰もが生きることの幸せを感じる社会を目指す

現在、共生福祉部会では、「経済と福祉の融合」を学ぶとともに、



▲右：共生福祉部会 原田前会長
左：共生福祉部会 齋藤会長

障害者雇用の促進を目指し、障害者理解につながる研修会や、ひきこもりの社会復帰支援について学ぶ研修会、合理的配慮を学ぶ視察研修等に取り組んでいます。

他業種連携により地域のニーズに応える！

株式会社ライブスポーツの取組

子供たちの居場所を作る

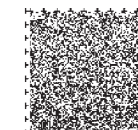
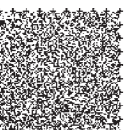
株式会社ライブスポーツ（以下、「ライブスポーツ」という）では、スイミングクラブやフィットネス経営などの事業を行っています。その拠点の1つ、ライブスポーツ錦ヶ丘にお邪魔しました。中へ入ると、子供たちの楽しそうな声が響き、運動教室が行われる傍ら、宿題に取り組み子供たちが見えます。経営するスイミングクラブの中で学童保育が行われているのです。ライブスポーツの取組は、核

と特性を活かし、地域の役に立っていないかと考えたといます。同友会では、他業種の経営者と出会うことができたため、児童福祉分野の経営者から助言を受け、県からの助成金を受ける形でスイミングクラブの館内で学童保育「らいびが児童クラブ」をスタートしました。



家族化や共働き世帯の増加等を背景に、子育て中の保護者の声をきっかけに生まれました。「子供たちを預けるところがない」「留守番をさせるのは不安」「子供たちの居場所がほしい」などの声に対して佐藤社長は、社員の方々の検討の場を設け、スイミングクラブの建物

これまでに経験のない取組であり、大変なご苦労があったようです。スイミングクラブの送迎バスを利用した児童の送迎や、フルタイムで働く保護者の方々に配慮した20時までの預かり



など、地域のニーズに対応した事業展開と、運動に特化した学童保育への関心は高く、地域の子育て中のご家族からは、大変喜ばれているとのことでした。また、佐藤社長は、スイミングクラブ館内での水泳だけでなく、体操や学童保育、送迎対応を行うなど、多様化する子供たちの習い事ニーズに対するワンストップ支援を目指しているとのことでした。



**障害のあるなしに関わらず
水泳に触れる機会を**

さらに佐藤社長は、特別支援学校等に通う障害児の保護者の声から「障害児を受け入れるスイミン

グクラブが少ないこと」や「障害児には水が好きな子供たちが多いこと」を知ります。そこで、福祉事業や運動スクールを手掛ける一般社団法人MOTTO（以下、「MOTTO」という。）と連携し、スイミングスクールが実施されない空き時間を利用し、障害児を対象としたスイミング「らいぶMOTTOクラブ」を始めました。実施にあたっては、障害に関する知識がある専門の職員が見守る体制となっています。

MOTTO代表理事の齋藤氏は、佐藤社長の取組方針に共感し、共に事業を展開しているとのこと。ライブスポーツ錦ヶ丘の中には、MOTTOが実施する児童発達支援・放課後等デイサービス事業所も入っており、スイミングスクールや学童保育の子供たちは、日常的に障害児との接点があります。幼少期から当たり前のように障害児者が同じ空間にいることも、心のバリアフリー化を促進し、差別や偏見のない多様性を認め合う心の醸成に寄与するものと考えます。



地域共生社会の実現に向けて

佐藤社長が、地域の声に耳を傾け、地域にある課題を認識し、他業種と共に課題解決につながる手立てを模索・実践したその取組は、まさしく地域共生社会の実現につながるものです。

地域共生社会の実現のためには、多様な団体が地域に目を向け、できる範囲で支え合いの活動に取り組むことが重要となります。地域にある企業は、そのために大切な存在です。今後も、企業等による支え合い活動、地域貢献活動の取組を紹介していきます。



宮城県中小企業家同友会
(電話) 022-355-2771

株式会社ライブスポーツ
ライブスポーツ錦ヶ丘
(電話) 022-748-4020

一般社団法人MOTTO
代表理事 齋藤氏
(介護福祉士)

株式会社ライブスポーツ
社長 佐藤氏

らいぶ児童クラブ
管理者 関氏
(放課後児童指導員)

